

きらめき

vol 40
2024.1.10

令和6年3月オープン!

新しい与謝の園



発行／社会福祉法人 北星会 編集／広報誌編集委員会

〒626-0033 京都府宮津市字宮村1277 TEL：0772-22-8233 FAX：0772-22-8477
ホームページ：http://www.hokuseikai.or.jp/ Eメール：info@hokuseikai.or.jp



与謝の園 新築移転について

特別養護老人ホーム与謝の園は、昭和60年4月の開園以来、ご入居者、ご家族の皆さま、地域の皆さまにあたたかいご支援とご協力を賜り、高齢者福祉のため一意専心してまいりました。心よりお礼申し上げます。

この度与謝の園は、老朽化に伴い、桑飼小学校跡地に新築移転することになりました。この地域には珍しい4階建ての建物で、国道176号線から見えますので、すでにご存知の方も多と思います。施設は現在の従来型特養（シヨートステイ含め90名多床室）から、1ユニット15人の6ユニット（シヨートステイ含め90名個室）のユニット型特養に変わります。

令和3年の介護報酬改定で「1ユニットの定員が10人以下から15人を超えないもの」となり、全国的にも数が少ない新しいユニットケアに挑むことになりました。新しい施設では、ご入居者一人ひとりの生活リズムを尊重し、自立した日常生活を穏やかに過ごしていただくことを目標としています。また、地域交流ホールでは、地域の方々との交流を深める仕組みづくりを予定しています。

与謝の園は、職員が働きたい、働き続けたいと思える職場も目指しており、働きやすさを大切に、職員の負担軽減のため見守り機器の導入や職員が現場から離れて心身共にリフレッシュできる休息の空間を作ります。与謝の園は、ご入居者の方々と職員の笑顔を大切にする施設でありたいと思っています。（東垣由美子）



4階 蝶鈿（らでん）



3階 草紅葉（くさもみじ）



2階 大江の山（おおえのやま）



4階 黒椿（くろつばき）



3階 夏河（なつかわ）



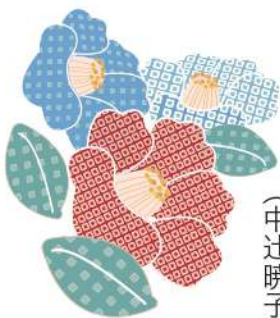
2階 絹織（きぬおり）

ユニット名について

与謝の園6ユニットの名前を職員から募集したところ、たくさんの方が集まりました。その中で、ひと際目立っていたのが、地元ゆかりの文学を元にイメージしたユニット名です。与謝野晶子、与謝野鉄幹、与謝蕪村といった歌人・俳人が詠んだ歌や句の一部分を引用したユニット名です。

ユニットの配色も、その名前からイメージした色合いを採用。そのカラーをご入居者の共同生活スペースである食堂からよく見える壁一面に採用します。食堂の窓から見える大江山の風景と与謝野町の街並みがよりユニット名を引き立たせてくれます。

（中辻暁子）



うちのスタッフを紹介します — 天橋園



はじめまして。福岡県から引っ越してきて、8月から天橋園で働いています。どうぞよろしくお祈りします。頑張るばい！（筑豊弁）

Q1. 普段の仕事内容

排泄や入浴など身体に関わる支援を目的とした「身体介護」また、買物や掃除等ご利用者に関する日常生活の支援を目的とした「生活援助」を主体に1日2～3件ほどのサービスに入らせていただいています。

Q2. この仕事をしようと思ったきっかけは

地元ではグループホームで働いていましたが、元々在宅支援に興味があり「いつか働いてみたい」と思っていたので、今回この訪問介護の仕事を選びました。

Q3. ヘルパーをしてどう思いましたか

施設での業務とは違いが沢山ありました。訪問介護ではその日の健康状態など瞬時に把握しなければいけません。訪問も一人なので緊張感がありますが、いろんなご利用者と関われる機会も多く、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

Q4. 宮津で働いてどのように思いましたか

ご長寿な方が多く、よく街中でもご近所同士でお話されている姿を見かけます。活気と優しさ溢れる地域の皆さんのおかげで、私も毎日楽しく暮らしていけとうです。（筑豊弁）



社会とつながる
買い物支援

ハウゼ天橋通所介護事業所

ハウゼ天橋（認知症対応型通所介護）では、独居の方・夫婦二人暮らしの方を中心に「買い物支援サービス」を実施しております。

買い物支援サービスとは、一人暮らしの方や、交通手段がなく不便な方などの買い物スタッフがお手伝いするものです。当日の夕食・その他の食料品・嗜好品・生活必需品と様々で、中には携帯電話・電気カミソリを買われる方もおられます。買い物に行く場所は、宮津・与謝野町のスーパーマーケットの他、ご利用者の希望により、鮮魚店・電気屋等の専門店に行くこともあります。ご利用者の中には「自身での買物を5年以上続けておられる方もいて、認知症の進行が緩和され、逆にできなかったことができるようになったと感じています。買い物に出かけ、商品を自分で自由に選べることによる気分転換等が効果の要因でないかと思われるます。また、離れて暮らすご利用者のご家族からも「本人が夕食を作るのが難しくなってきたので助かる。」「体が悪く動けないので助かる。」ととても好評です。



今後も当事業所では、認知機能低下予防の観点から希望者に「買い物支援サービス」を提供していきますので、ご相談ください。（半海義就）

なぎさorium



なぎさ苑は阿蘇海のほとりに位置し、海を眺めながら散歩をされるご利用者もたくさんおられます。魚が好きな方が多いことに気づき、京都府立海洋高等学校マリンバイオ部の生徒さんのご協力で、施設の中にいながら優雅に泳ぐ魚を観賞できる癒しスポットとして水槽を設置していただきました。「かわいいなー。お父さんも大好きでよう飼ったわ。こうやって優雅に泳ぐ魚見るん私大好きだ。」とおっしゃるご利用者。「おはよ！こうやって声掛けるんが私の日課になってるんや。」とおっしゃるデイケアのご利用者。「すごく状態がいいですねー。私も大好きで家で魚を100種以上飼ってます。」とおっしゃる業者さん。色々な方とこれまでになかった会話が小さな水槽を通してできるのも大きな喜びです。

これからも、『小さなきっかけ』が『大きな喜びにかわる』取組をご利用者と一緒に考えていきたいです。(藤原敬也)



特殊浴槽入替え完了

なぎさ苑開所時に設置し、23年間フル稼働の特殊浴槽が、その任務を終え引退しました。

新しく設置しました、『アラエル』という特殊浴槽は何とシャワードーム式浴槽。通常の入水式に比べ、ご高齢の皆様への負担を軽減させ、保温効果が高く身体の芯まで温まるのが特徴です。

シャワードーム内のノズルの数は22個。「洗いたいところ・洗うべきところ・洗いにくいところ」にしっかりシャワーが当たる設計で、全てがウルトラファインバブル。直径1μm(マイクロメートル)未満の肉眼では見えない泡が毛穴の奥まで入り込み、汚れをしっかりと落とすためお肌のうるおいも保ってくれ、入浴中も入浴後も快適な時間を過ごしていただけます。

洗髪に使用するシャワーヘッドも、話題のミラブルZEROを導入し、頭皮の毛穴に残る皮脂まで綺麗に洗い流してくれます。

入浴後のご利用者の感想

「変わったお風呂だけど、気持ちがあええわ!!ポカポカするわ」との感想が聞こえてきます。

家では体感できない入浴タイムをなぎさ苑は自信を持って提供いたします。(藤原敬也)



認知症サポーター

天橋の郷

天橋の郷では、地域貢献PR委員会を中心に認知症カフェの運営や地域の清掃活動など地域の皆様のお役に立てる活動に取り組んでいます。

全国的に高齢化が進み認知症の方も増えており、家族だけでなく地域全体で認知症の高齢者を支える仕組みが必要になっています。その仕組みの一つに認知症サポーターの養成があります。「認知症サポーター」とは、認知症について正しい知識を学び、地域に暮らす認知症の人やそのご家族に対して、できる範囲で手助けをする人のことです。

現在、天橋の郷には認知症サポーターを養成する講師を務めることができるキャラバンメイトの有資格職員が7名在籍しています。



今年も宮津市地域包括支援センターからの依頼を受け、栗田小学校3年生と宮津中学校1年生の児童生徒さんを対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。受講された児童生徒さんに認知症を正しく理解してもらえよう、スライドと寸劇でわかりやすく説明。92名の認知症サポーターが誕生しました。

地域で暮らすみんなが認知症について正しく理解し、地域全体が認知症の人やその家族を温かい目で見守り、必要なサポートをすること、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりができると思います。

天橋の郷では、今後も誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献してまいります。(大浦俊輔)



秋の行事として府中方面への遠足を実施しました。企画段階で職員から「天橋立観光船に乗れないかな？」と提案があり、丹海さんに相談してみた所、車いすの方にも対応できますというありがたいお返事をいただきました。当日は天候にも恵まれ、観光船に乗り、籠神社へ参拝、ウォーキングで周辺観光という素敵なプランになりました。「汽船に乗るのは小学校の時以来80年ぶりやわ」と感激の声もあり、地元再発見のお出かけを楽しんでいただきました。



リ・スタイル 秋の遠足

リ・スタイルでは皆様にやりがいや楽しみを感じていただけるようにポールウォーキングでの外出やグラウンドゴルフ等、屋外でのレクリエーションに力を入れています。外に出て景色を見ながら歩くと不思議といつもより調子よく歩けるんです。昔を思い出して「昔来たことがあるわ」「今はこんな建物が建つとんやなあ」と回想しながらの外出は脳の活性化に繋がり、心地良い風を感じながらの活動で気持ちの安定にも良い効果が得られます。

日常の活動やトレーニングで体力の維持・向上を図り、外出レクリエーションでの長距離歩行など屋外で生活リハビリを行い、健康寿命を伸ばして楽しく元気な毎日を送っていただけるよう、これからもお手伝いしていききたいと思います。(大江美苗)

与謝の園

～デイサービスでの外出行事～

猛暑だった夏が過ぎ、季節は行楽の秋。気温がちょうど過ごしやすくなってきたこともあり、ご利用者から外でご飯を食べたいとの意見をいただき、京丹後市の弥栄町にある丹後王国「食のみやこ」にお弁当を持って行ってきました。



コロナが5類になったことで世の中の人流も増え、マスク着用の人が減少傾向にあることや、やはり高齢者施設ということもあり、屋内での他者との接触は極力避けたい思いがありました。しかし、屋外でなら飲食をしてもらいやすいということで『丹後王国でお弁当食べて買い物して動物と触れ合って』を目的とした外出レクを計画しました。

お昼前にデイサービスを出発し、山々が紅葉し始めたのを眺めながらドライブをして、丹後王国に到着。まず、お土産屋で買い物をさせていただきました。今回は買い物の予算を1000円までとさせていただきます。決められた金額の中で「それも欲しいけどそれ買ったらこれ買えんな」と思案されている姿が見られました。

買い物を終え、素敵な景色の中、心地よい風を浴びながらの昼食は普段なかなか味わえない雰囲気であり、お弁当の味も格別であったようで「家の中で食べるより美味しいわ」といった声がありました。



昼食の後はミニ動物園に行き、うさぎや陸ガメ、羊や山羊など、普段はほとんど見られない動物たちを見ました。そこで餌やり体験もしていただき、食欲旺盛な動物たちに若干驚きながらも果敢に餌をあげておられました。

普段のデイサービスのご利用とは少し違う体験をされて、皆さん笑顔が多く見られました。これからも様々な外出レクを計画しますのでお楽しみに♪(岡田沙蘭)



駅伝

天橋立でつなぐ想い

年に1回開催される天橋立駅伝競走大会に法人の有志が参加し始めて3年。ついに表彰台に昇りました。



10月29日、日本三景天橋立の松並木をコースにした今年で7回目を迎える駅伝大会に、北星会から2チームが出場。「北星会★花」チームが、5区間12キロを48分55秒で快走し、一般の部準優勝に輝きました。

選手は、大会3か月前からお互いに声を掛け合い、仕事が終わってから練習を重ねてきました。駆けつけた選手家族やチーム関係者だけでなく、天橋立を訪れた観光客の皆さんにも熱い声援をいただき、チーム全



員が想い（オレンジたすき）をつないだ結果が、成果としてあらわれました。

これからも健康のために自ら楽しみ、また地元を盛り上げられるように自主練に励みたいと思います。皆さんも早朝の清らかな空気を体中で感じながらのランニングを、ご一緒にいかがですか。（水谷 暁）



令和5年度社会福祉功労者に

対する厚生労働大臣表彰

（令和5年11月15日 東京浅草公会堂）



特別養護老人ホーム与謝の園の石川ひとみさんが、地域福祉の推進に多年にわたり尽力された功績が認められ、厚生労働大臣表彰を受けられました。今年是全国で318名、京都府では6名がこの表彰を受けられました。

石川ひとみさんは、昭和60年4月1日に【社会福祉法人北星会】に入職され、平成元年からは事務主任として職務に邁進されました。平成29年に定年を迎えられたあとも、嘱託職員として、特別養護老人ホーム与謝の園や社会福祉法人北星会本部財務課を経て、現在も特別養護老人ホーム与謝の園で活躍されています。

社会福祉法人北星会の一職員として、先輩を誇りに思い、いつか自分もこんなふうに胸を張れる立派な「福祉のひと」になりたいと思います。（芝井絵美）



きょうと福祉人材育成認証制度

上位認証法人

「きょうと福祉人材育成認証制度」とは、京都府が全国に先駆けて、福祉業界が若者にとって安心して働ける業界であることについて、根拠を持って説明していくツールとして、平成25年度に創設された制度です。

この認証制度は、職員の人材育成や就労環境等の改善につながる介護事業者の取組について、都道府県が基準に基づく評価を行い、一定の水準を満たした事業者に対して認証を付与する制度となっています。

北星会は、平成26年に申請を行い認証法人となりました。さらに上位認証法人となる為に数年前から準備をすすめ、令和5年11月において878の認証・宣言事業所の中で、現在17法人のみとなっている上位認証法人の1つとなりました。

今後も上位認証法人として①新人教育の充実、②未来を描ける職場、③社員を大切にする職場、④外部との交流に積極的に行う取り組みを一層進めてまいります。(松村博志)



百人一首



栗田のびのび 放課後児童クラブ



これからも百人一首の取組を継続していきます。「のびのびでやっていった百人一首が役に立ったわ!」と思ってもえたら嬉しいです。百人一首の他にも、子どもたちが「来ていて良かったな」と思えることが増えるように支援していきたいと思えます。(高原望乃)

て良かったと思えるような支援をしたいという想いから、百人一首を行うことに決めました。勉強をして、おやつを食べたら百人一首タイム。子どもたちの間でも「あつ、今日百人一首か!」と習慣化しており、自分たちで札の準備を始めます。「え〜」という声も時々聞こえてきますが、いざ始めるとみんな一生懸命です。毎週継続している甲斐もあり、上の句の途中で札を取る児童が増えました。札を取る時には「はい!」という元気な声が聞こえ、1年生は「これで合ってる?」と支援員に確認して少しずつ覚えていきます。取った枚数を競うのではなく、目的はあくまでも覚えること。宮津市にゆかりのある句「大江山く...」と「由良の門をく...」は全員覚えてほしいです。

下校時間が早い毎週水曜日。栗田のびのび放課後児童クラブでは、百人一首を行います。宮津市では、小学校高学年から始まり、中学校や高校で、すべての句を覚える宿題や百人一首大会があるところも多いです。そこで、令和4年の12月から百人一首の取組を始めました。栗田のびのび放課後児童クラブで過ごす中で、今後に役立ち、利用し

編集後記

平成13年からスタートした広報誌きらめきも今回で40号となりました。法人設立以来、4つの施設が生まれ、長い年月を歩んできた与謝の園もいよいよ3月に新築移転オープン。これからどんなことができるかな?こんなことができるたらおもしろいだろうな。と考えながら、新たなスタートにワクワクしています。



←ホームページ
はコチラ